

経済・金融 フラッシュ

【東南アジア経済】

ASEANの貿易統計(12月号)

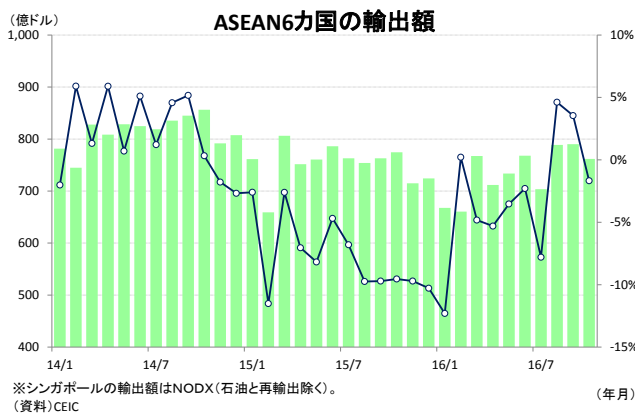
～3ヵ月ぶりのマイナスも回復基調は継続

経済研究部 研究員 齊藤 誠

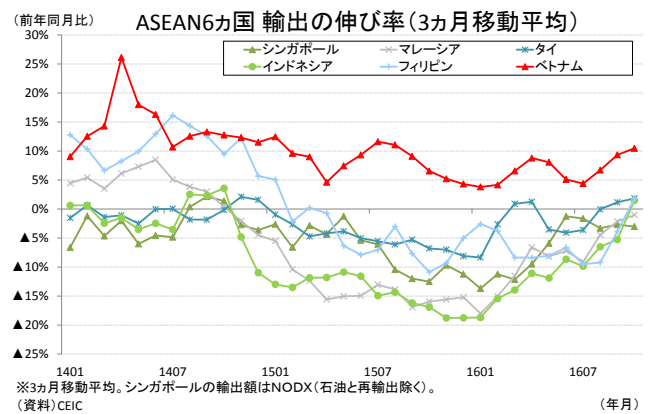
TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

16年10月のASEAN主要6カ国の輸出(ドル建て通関ベース)は前年同月比1.7%減と、前月の同3.5%増から低下した(図表1)。輸出は資源価格の底打ちによって年明けから緩やかな回復の動きが続いてきたが、10月はレバラン(断食明け大祭)に伴う営業日数の減少によって下振れた7月に続いて下振れし、3ヵ月ぶりのマイナスとなった。もっとも10月の輸出は小幅の下落に止まり、増加傾向に変化はないものと見られる。

(図表1)



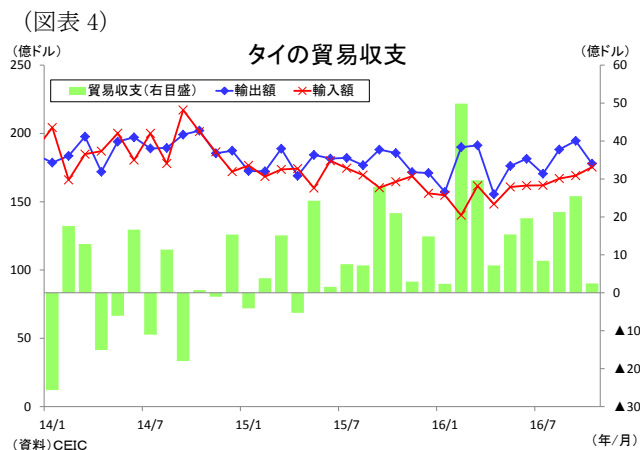
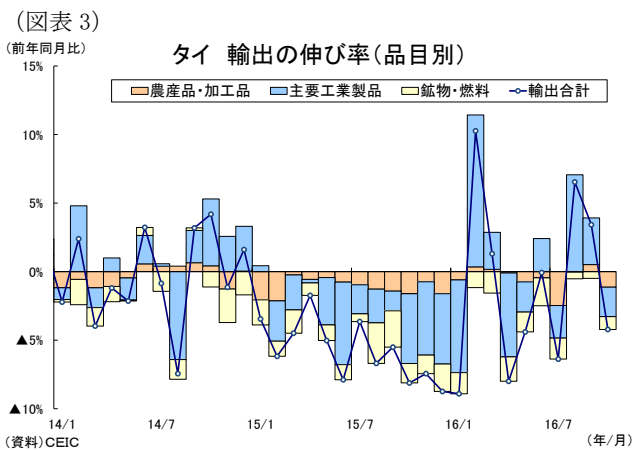
(図表2)



タイの16年10月の輸出額は前年同月比4.2%減(前月:同3.4%増)と低下した(図表3)。10月の輸出はマイナスに転じたものの、年明けからの上下に振れながらも緩やかな増加傾向は続いている。

品目別に見ると、全体の約8割を占める主要工業製品は同2.7%減(前月:同4.2%増)と3ヶ月ぶりのマイナスとなった。機械・装置(同6.2%増)こそプラスを維持したものの、電子製品・部品(同5.7%減)、家電製品(同2.5%減)、自動車・部品(同2.1%減)など幅広い品目が減少したことが全体を押下げた。また鉱業・燃料は同22.1%減(前月:同13.5%減)と、引き続き石油製品を中心に前年割れとなった。さらに、農産品・加工品は同6.5%減(前月:同3.2%増)と、果物(同76.3%増)こそ大幅に増加したものの、コメ(同24.4%減)、ゴム(同5.1%減)、タピオカ(同26.8%減)を中心に2ヵ月ぶりのマイナスとなった。

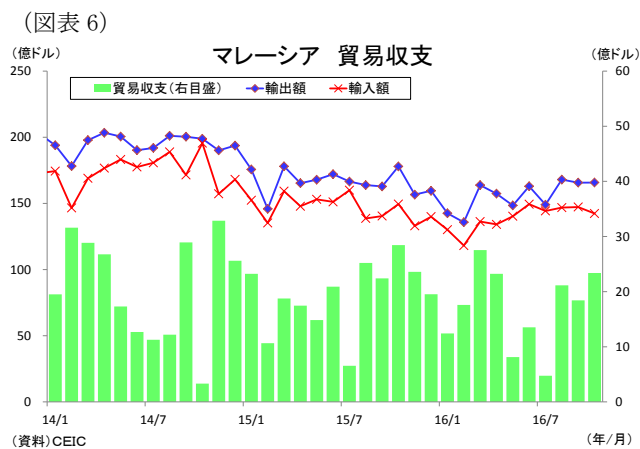
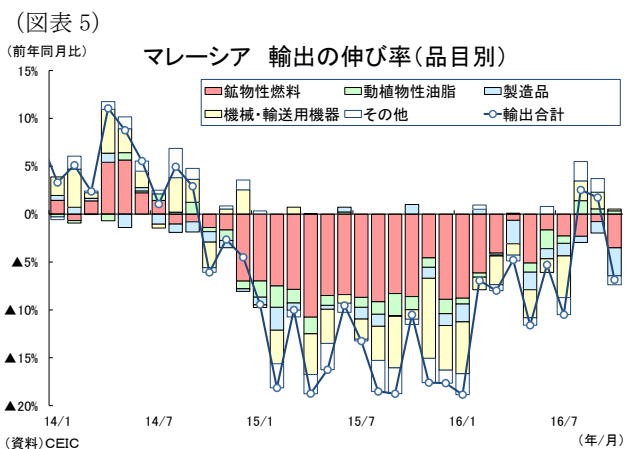
輸入額は前年同月比6.5%増と、前月の同5.6%増から上昇した。結果、貿易収支は2.5億ドルの黒字(前月から23.0億ドル減少)と、18ヵ月連続の黒字となった(図表4)。



マレーシアの16年10月の輸出額は前年同月比6.8%減(前月:同1.7%増)と低下した(図表5)。輸出の伸び率は原油・天然ガスを中心にマイナスに転じたものの、これは前年同期の輸出額が大きかったことによる影響があるため、年明けからの底打ちの動きは続いているものと見られる。

品目別に見ると、鉱物性燃料は同21.5%減(前月:同5.2%減)と、原油・天然ガスを中心にマイナス幅が拡大した。また製造品も同28.3%減(前月:同12.3%減)と、ゴム手袋を中心にマイナス幅が拡大した。一方、全体の約4割を占める機械・輸送用機器は同0.4%増(前月:同4.0%増)と電気・電子製品が伸び悩んだものの、小幅のプラスを確保した。また動植物性油脂も同5.7%増(前月:同8.4%増)と、パーム油・同製品を中心に底堅い伸びとなった。

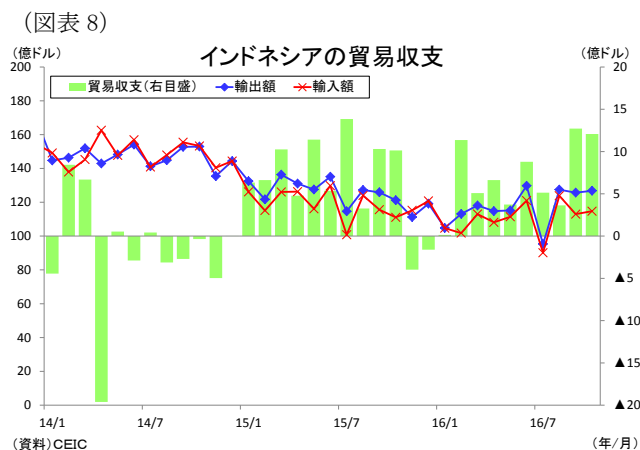
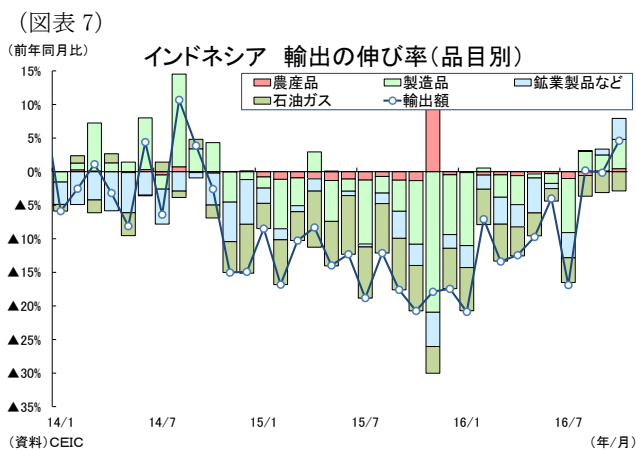
輸入額は前年同月比4.8%減と、前月の同4.9%増から低下した。結果、貿易収支は23.4億ドルの黒字と、前月から5.0億ドル黒字が拡大した(図表6)。



インドネシアの16年10月の輸出額は前年同月比4.6%増(前月:同2.3%減)と2ヵ月ぶりのプラスに転じた(図表7)。7月こそレバラン(断食明け大祭)に伴って営業日数が少なかったことから下振れたが、コモディティ価格の上昇を受けて底打ちの動きが続いている。

品目別に見ると、輸出全体のそれぞれ1割強を占める石油ガスが同25.2%減(前月:同27.0%減)と引き続き全体の重石となる一方、製造品が同5.8%増(前月:同3.3%増)と機械類を中心に拡大傾向が続いている。また鉱業製品が同29.8%増(前月:同7.0%増)と一段と上昇して2013年12月以来の二桁増を記録した。農産品も同15.9%増(前月:同3.5%増減)と約1年ぶりの二桁増となった。

輸入額は前年同月比3.3%増と、前月の同2.3%減から上昇した。結果、貿易収支は12.1億ドルの黒字と、前月から0.6億ドル黒字が縮小した(図表8)。



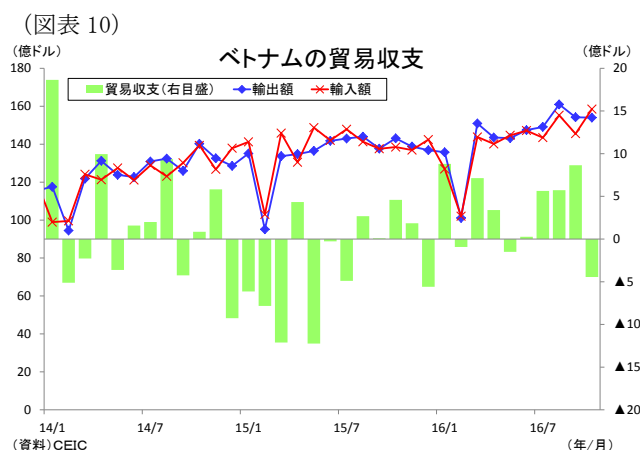
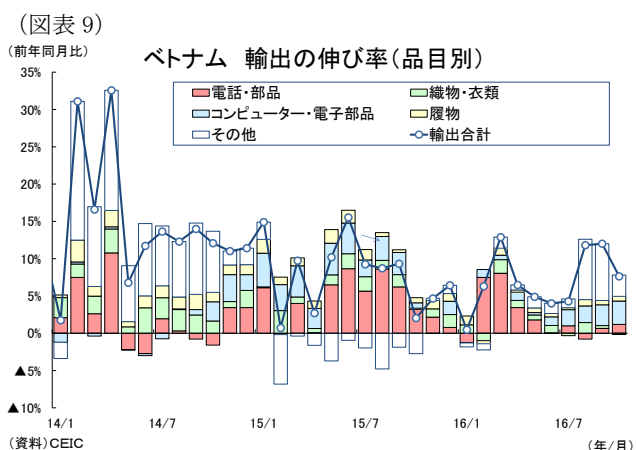
ベトナムの16年10月の輸出額は前年同月比7.6%増(前月:同12.0%増)と低下した。輸出の伸び率は前月から低下したものの、主力の電話・部品を中心に堅調な伸びが続いている(図表9)。

品目別に見ると、輸出全体の約2割を占める電話・部品が同6.4%増(前月:同3.2%増)、コンピュータ・電子部品が同30.6%増(前月:同28.3%増)と、それぞれ一段と上昇した。また食品はコメ(同55.7%減)が大きく落ち込んだものの、コーヒー(同43.9%増)、水産物(同10.0%増)など総じて増加した品目が多かった。一方、織物・衣類は同1.2%減(前月:同2.4%増)と減少したほか、履物は同9.3%増(前月:同9.7%増)と高水準ながらも若干鈍化した。

資本別に見ると、輸出全体の7割を占める外資系企業が同7.9%増(前月:同9.8%増)と低下し、地場企業が同0.3%減(前月:同2.3%増)と3ヵ月ぶりのマイナスとなった。

輸入額は前年同月比14.4%増と、前月の同5.8%増から上昇した。結果、貿易収支は4.4億ドルの赤字(前月から13.1億ドル減少)と、5ヵ月ぶりの赤字となった(図表10)。

なお、10月11日には韓国サムスン電子の新型スマートフォン「ギャラクシーノート7」の生産の打ち切りが発表されたが、10月の輸出の落ち込みは見られなかった。これは代替機種種の輸出が増えたことが要因と見られる。



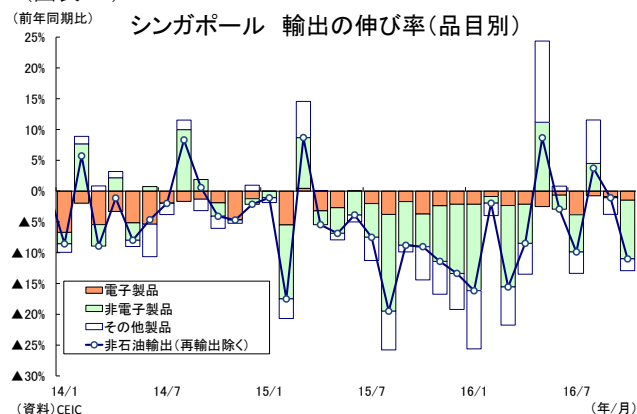
シンガポールの16年10月の輸出額(石油と再輸出除く)は前年同月比11.0%減(前月:同1.1%減)と2ヵ月連続のマイナスとなった(図表11)。年明け以降、総じて輸出底入れの動きは続いているとみられるが、医薬品を中心に上下に振れている上に回復ペースも緩慢なものとなっている。

品目別に見ると、まず輸出(石油と再輸出除く)全体の約3割を占める電子製品は同4.9%減(前月:同2.8%減)と低下した。電子製品の内訳を見ると、PC部品(同9.9%増)とダイオード・トランジスタ(同10.1%増)が増加したものの、IC(同4.0%減)やPC(同4.8%減)、通信機器(同19.0%

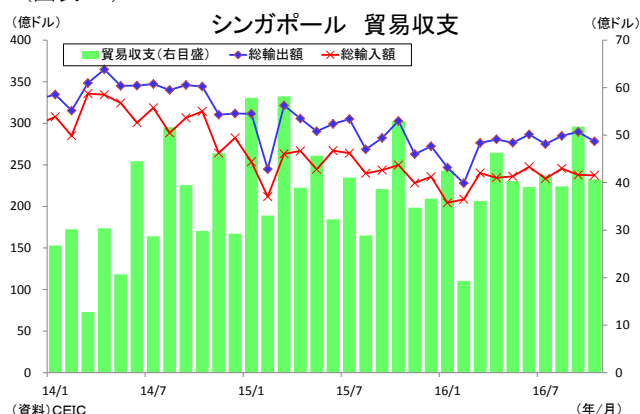
減)が減少した。また電子製品と同じく全体の約3割を占める化学製品は同24.3%減(前月:同9.2%増)と、2ヵ月ぶりのマイナスとなった。化学製品の内訳を見ると、医薬品が同46.4%減(前月:同21.0%増)、石油化学製品が同6.0%減(前月:同2.7%減)と、それぞれ減少した。一方、その他製品は同5.0%減(前月:同6.5%減)とマイナス幅が縮小した。

総輸出額は前年同月比8.1%減(前月:同2.6%増)、総輸入額は同5.0%減(前月:同2.4%減)と、それぞれ低下した。結果、貿易収支は40.7億ドルの黒字と、前月から11.1億ドル黒字が縮小した(図表12)。

(図表 11) シンガポール 輸出の伸び率(品目別)



(図表 12) シンガポール 貿易収支

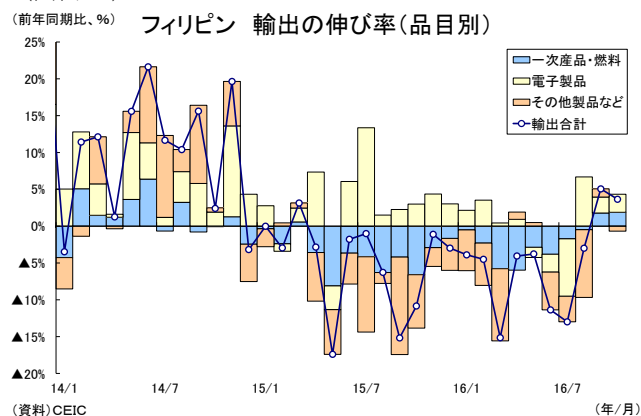


フィリピンの16年10月の輸出額は前年同月比3.7%増と、前月の同5.1%増から低下した(図表13)。輸出は前月から鈍化したものの、輸出の牽引役である電子製品を中心に2ヵ月連続でプラスを維持し、回復の動きが続いている。

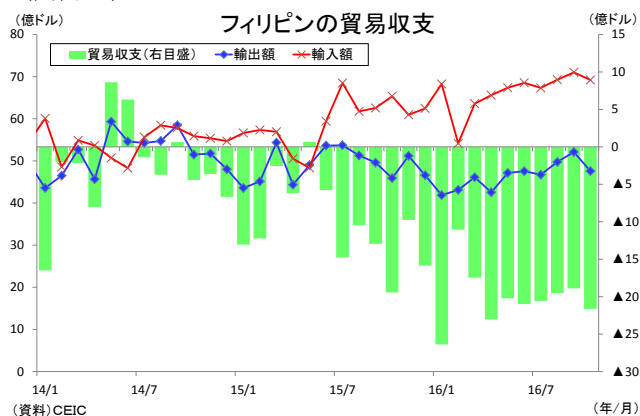
輸出シェア上位10品目を見ると、まず輸出全体の約5割を占める電子製品は同4.7%増(前月:同4.2%増)から上昇した。電子製品の内訳を見ると、電子データ処理機(同11.8%増)と半導体デバイス(同0.5%増)がそれぞれ鈍化したものの、消費者向け電気製品が大幅に増加した。その他9品目を見ると、ココナツ油(同60.4%増)と金属部品(同55.6%増)、その他鉱産物(同23.9%増)、電子機械・部品(同11.2%増)、イグニッション・ワイヤーセット(同2.4%増)が増加した一方、木工品・家具(同14.7%減)と機械・輸送用機器(同9.2%減)、その他製造品(同7.8%減)、化学(同4.8%減)が減少した。

輸入額は前年同月比5.9%増と、前月の同13.5%増から低下した。結果、貿易収支は21.6億ドルの赤字と、前月から2.7億ドル赤字が拡大した(図表14)。

(図表 13) フィリピン 輸出の伸び率(品目別)

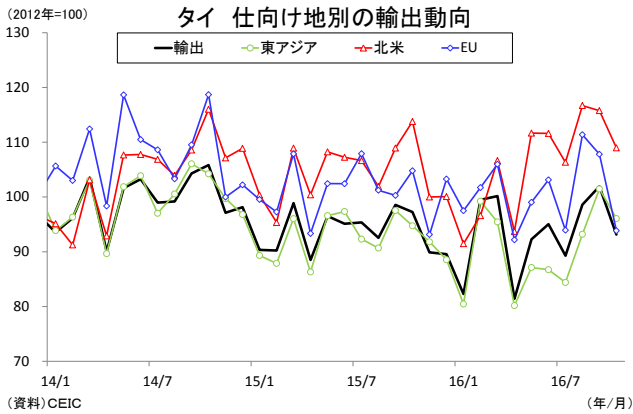


(図表 14) フィリピンの貿易収支

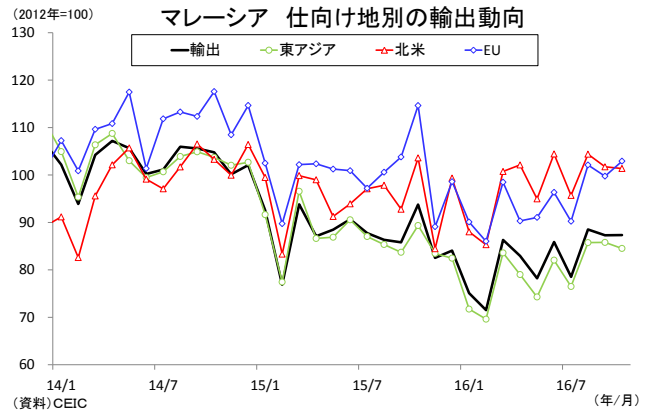


(参考) 仕向け地別の輸出動向

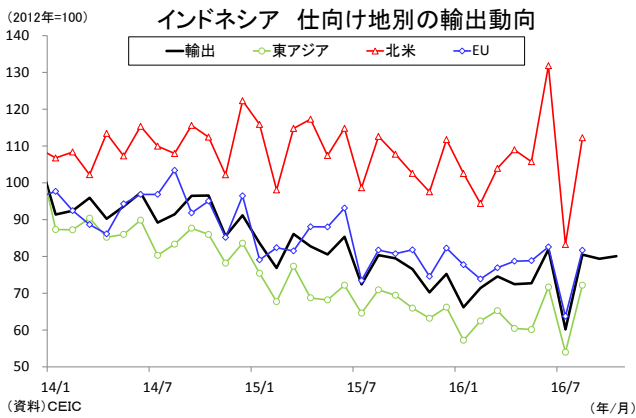
(図表 15)



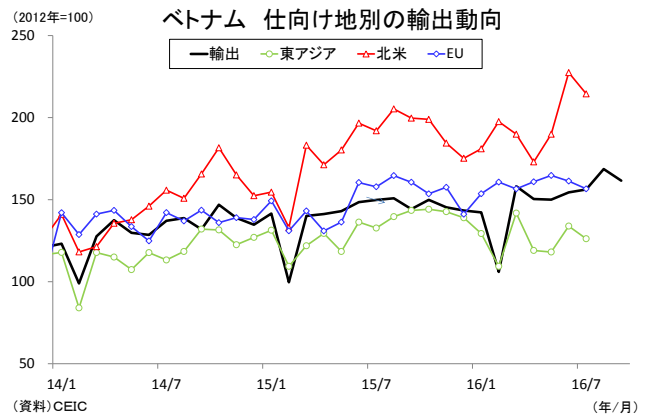
(図表 16)



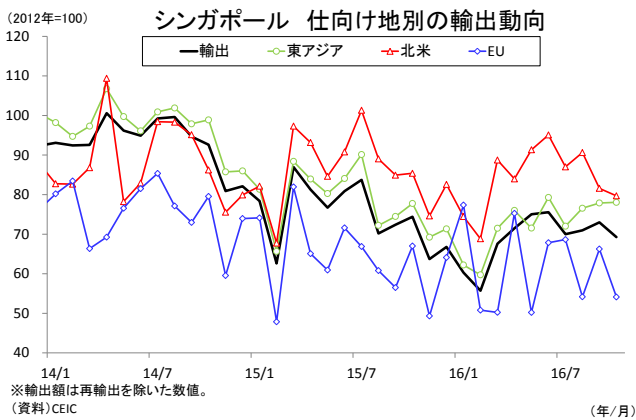
(図表 17)



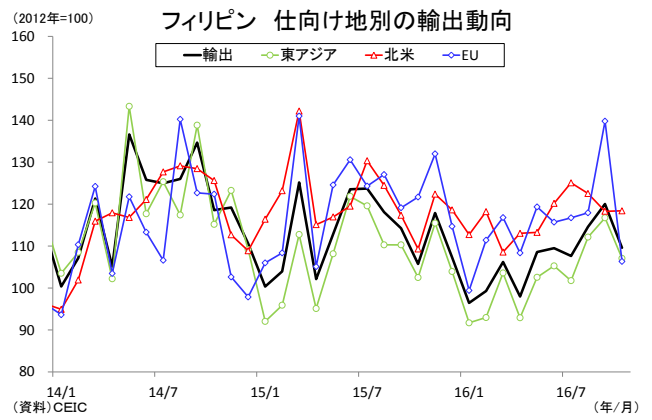
(図表 18)



(図表 19)



(図表 20)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。